

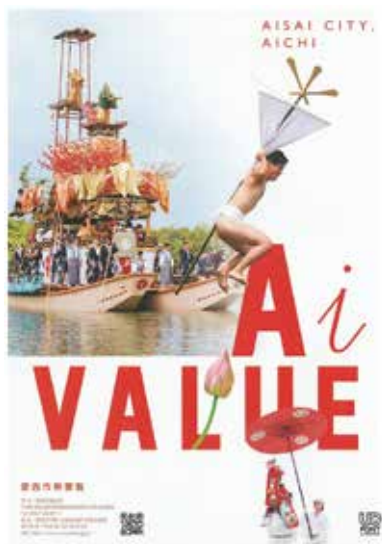


シティプロモーション すべき取り組みは

竹村 仁司議員

道の駅を拠点とした情報発信を行いたい

産業建設部長



▲シティプロモーションの実践例

問 リニューアルオープンの計画がある道の駅立

田ふれあいの里は、シティプロモーションすべき施設だが、これまでの情報発信、取り組みは。

答 蓮見の会には、毎年多数の人が、市外または県外から訪れている。令和5年の蓮見の会は、悪天候にもかかわらず、シャトルバス、駐車場の利用状況から約2千人の来場者があった。蓮見の会以外でも、6月後半から8

月上旬の間には、SNSを活用して、花ハスの開

花状況を発信し、花ハス目当てに多数の人が訪れている。花ハスの情報や地元特産品と道の駅ならではの新鮮野菜が値打ちに購入できることをPRしている。

今後は道の駅周辺整備に併せて、道の駅を拠点とした観光コースのマップや体験型の観光施設の発掘などを行い、観光案内のツールを作成し、情

報発信を行っていききたい。

問 シティプロモーションは、決して市側だけで進めるものではない。例

えば「木曾川の四季」と題した市民提供のドローンによる空撮映像がある。今後の取り組みは。

答 「木曾川の四季」は、市民に提供いただいた空撮映像を令和3年3月にYouTubeにアップした動画だ。また、5年7月にアップした「木曾川と長良川の大自然」は、空撮映像を一部活用し、動画を委託制作した。これら2つの動画は、ドローンによる空撮映像を使うことで、

シンボルとなるような施設が開設されることで、

さらに交流人口の増加が予測できる。市民にとってこの地域で誇れるもの、人に勧めたくなるもの、これがまちの誇りになる。

今後、どのようなシティプロモーションを考えているか。

答 シティプロモーションを考えた情報発信を進めなければならない。例えば専門の課を設置するのであれば人材と予算が必要となる。予算を投じることに理解を得られるか検証、研究していかなければならない。

問 道の駅のリニューアルや愛知県フットボールセンター愛西など、市の